

研究専攻（専門領域）		日本・アジア研究専攻		学籍番号	06CS025
氏名	严 春姬	ローマ字	YAN CHUNJI	国籍 (留学生)	中国
修士学位 論文名 特定課題研究名	間接受身文の成立条件				
提出年月日	2008年 1月 10日		指導教員	姫野伴子	
体裁 (論文)	61頁 (1頁文字数 1440字)		言語	日本語	
別冊添付資料等					
キーワード	間接受身文、非対格動詞、自己制御性				

本稿は、日本語の間接受身文の実例を分析し、間接受身文が成立する際にいくつかの条件を結論づけたものである。

まず、先行研究を概観し、従来の説における問題点を指摘する。主な問題点としては、非対格動詞が受身にできないという説は正しいのかということと動詞以外に一体どのような要素が受身の成否に関わるのかの二つである。

次に、『新潮文庫 100冊』から、非能格動詞と非対格動詞が作る間接受身文の用例を収集し、非対格動詞は受身になれないという影山の主張を検証する。結果としては、非対格動詞が作る受身文も発見した。更に、受身文についてのアンケート調査を実施し、その結果と従来の研究を比較しながら、非対格動詞が作る間接受身文の特徴をまとめる。

最後に、アンケート調査の結果から得たデータと受身文の実例を分析し、間接受身文の成立に関わる要素を結論づける。分析の方法としては、文法的な要因と非文法的な要因両方に視点をおいて、論を展開していく。更に、間接受身文の構成成分によって、文法的な要因を「受身の動詞」と「「ニ」格名詞句」に両分し、非文法的な要因を「文内の他の成分」と「文脈的な要因」に分け、順に分析していく。

結論としては、以下のようにまとめられた。

	受身の動詞		「ニ」格名詞	文内他の要素	文脈要素
	自己制御性	迷惑性		迷惑を示す要素	背景・経緯の記述
間接受身文成立しやすさ	高 ↑ 達成 ↓ 過程 ↓ 非自己制御 ↓ 低	迷惑性大 ↓ 迷惑性小	人間動物 ↓ 他生物 ↓ 自然力 ↓ 無生物 ↑ 擬人化	要素多 ↓ 要素少	記述多 ↓ 記述少